

I L O V E みやたけ

～『学校大好き、先生大好き、友達大好き そして自分が大好き』な子どもたちをめざして～

1 学校経営の基盤

- (1) 本校は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめとする教育関係諸法規並びに福岡市教育行政施策要綱、福岡市学校教育指導の重点に基づき、児童や家庭・地域の実態に即した初等教育を行う
- (2) 「新しいふくおかの教育計画」並びに「後期実施計画」を受け5つの教育内容を重視する
 - ① 福岡スタンダード「あいさつ・掃除、自学、立志」
 - ② ことばを大切にせる教育
 - ③ 子どもの力を引き出し発揮させる教育
 - ④ 小中連携教育
 - ⑤ 家庭・地域・企業等と連携した教育活動
- (3) 児童や家庭・地域の実態をもとに、学校教育目標を設定し、教育課題の解決をめざして機能する組織として全職員の共通理解と協働体制によって、「心豊かにたくましく生きる力」をもつ人間の育成と自立をめざす

2 本校教育の目標

学校教育目標

基本的な生活習慣を身につけ、心豊かにたくましく生きる
強い意志と実践力をもった子どもの育成

(2) めざす子どもの姿

○ **かしこい子**

- ・ 意欲をもって課題にチャレンジする子ども
- ・ 先生や友達の話をしっかり聴き、進んで自分の考えを発表する子ども
- ・ 友だちの考えを大切にし、考えを深めたり広めたりできる子ども
- ・ 学習したことを生活の中で活用できる子ども

○ **つよい子**

- ・ 健康や安全に気をつけて楽しく元気に遊ぶ子ども
- ・ 礼儀正しく、明るいあいさつができる子ども
- ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子ども
- ・ めあてをもって、最後まで粘り強く取り組む子ども

○ **助け合う子**

- ・ 弱い者をいたわり、世話をしあげることのできる子ども
- ・ 友達を思いやり、適切な言葉や態度を選ぶことができる子ども
- ・ 異なる考えもった友達も大切にし、共によりよい生活を築くことができる子ども
- ・ 集団の中での自分の役割を自覚し、責任を果たすことができる子ども

(3) めざす教師の姿

- ・ 常に子どもと共にあり、子どもと共に伸びる教師
- ・ 組織の一員として、組織の活性化に貢献する教師
- ・ 日常の授業や教育活動を大切にし、教材研究に努める教師
- ・ 心身共に健康で、厳しさ・温かさ・思いやりを持った教師

3 本年度教育の基底・キーワード:「チーム宮竹」共通理解・協働実践でさらに前進!

学年・学級経営の充実

- ① 学校教育目標を基底として、学年・学級経営目標を設定する
- ② 学級経営案を作成し、成果と課題を明確にする
- ③ 学年と学級相互の連携を密にし、一人ひとりの児童を大切にする
- ④ 学年・学級と家庭との連携を密にし、協力して児童の育成に取り組む
- ⑤ 教室で児童を迎える(朝 8:30 に朝のあいさつ→健康観察→欠席者への連絡・職員室へ)

「かしこい子」の育成

(1) 確かな学力と学びとる力を伸ばす学習指導の充実

- ① 「わかる・できる・考える楽しさ」を味わう授業の創造
- ② 学習規律(心構え・身構え・物構え)の徹底と相手を見て、聞く・話す等の学習態度を確立・立腰タイムの効果的活用
- ③ 問題解決型学習や体験的な活動の重視・主体的・対話的・深い学び
- ④ 学力パワーアップ・補足的・発展的な学習や習熟度別や少人数指導の充実
- ⑤ 家庭学習+自学の確立(学年×10分+10分の定着)
- ⑥ 一人ひとりの学力課題の把握と指導の実際への活用

(2) 研修活動の充実

- ① 教育者として自己に厳しく、研究・研修を通して、専門職としての見識と力量を高める
- ② 組織的な研究体制を確立し、校内研究の深化と充実を図る
 - ・A 事業の成果の一般化・日常化
 - ・本年度、テーマ研究(一年次)の積極的取り組み
- ③ 教育論文、校内研修、県外派遣研修、市教育センター研修、市人研等各種研修会研究発表会への積極的な参加
- ④ OJTを核とした研修・学校全体での1年次研修の取り組み
- ⑤ 宮竹中ブロック・那珂中ブロックの小中連携教育の推進

(3) 図書館教育を推進する

- ① 心の教育推進のため、読書ボランティア(ばんぼう)の活用を積極的に取り入れる
- ② 学習情報センターとして活用できるよう整備に努める
- ③ 読書活動の充実に努める(読書感想文、読書発表、音読朗読発表等)
- ④ 「お話レストラン」「読書の日」「読書フェスタ」等を活用し、読み上げ冊数を増やす

(4) 情報教育を積極的に推進する

- ① パソコン教室の環境と情報機器の整備
- ② インターネットの活用と情報モラルの指導を推進する
- ③ 児童の課題解決に向けて、情報機器の活用を図る

「つよい子」の育成

(5) 豊かな心と規律・秩序ある態度を育てる生徒指導を推進する

- ① 体罰によらない心にひびく指導の徹底(迅速・正確・誠実)
- ② 組織的な対応と連絡体制の確立・複数での対応・迅速、丁寧な初期対応
- ③ 生徒指導部会・生徒指導全体会にて、児童の実態把握と共通理解・共通実践を図る
- ④ いじめ・不登校の未然防止、誠意ある対応
 - ・欠席時「電話連絡」連続3日欠席「家庭訪問」
- ⑤ QUテスト、生活アンケートの効果的な活用
- ⑥ 「宮竹スタンダード」「宮竹っ子のきまり」の定着を図る

「凡事徹底」 宮竹スタンダード

- ①元気な挨拶・はきはき返事 ②時間厳守 ③かかとをそろえ ④名札着用
⑤もくもく掃除⑥整理・整頓・片づけ ⑦相手が喜ぶ言葉遣い ⑧目と心で話を聞く

(6) 生命尊重の精神を基盤とした保健・安全教育を推進する

- ① 学級活動，学校行事，教科等で自己指導力育成の健康安全教育を計画的に推進する
- ② 校内外の定期安全点検を確実にを行い，不審者侵入に対して最善を尽くす（門扉閉門）
- ③ 防煙，性，薬物，エイズ，防災等に関する教育を計画的に実施する
- ④ 学級担任による健康観察を重視し，家庭との連絡を密に行い，健康保持に努める
- ⑤ 校外における交通ルールの遵守，安全確保を見通した指導の充実

「助け合う子」の育成

(7) 豊かな心の育成

- ① 全教育活動で一層の道徳教育を推進し，児童の規範意識の醸成を図る
- ② 創意工夫のある「道徳の時間」の展開
 - ・「ぬくもり」「私たちの道徳」「はらっぱ」等の日常的な活用
 - ・道徳教育の動向についての研修の実施
- ③ チャレンジマインドの育成・アントレプレナーシップ教育・「立志応援文庫」の活用
- ④ 「共育」による道徳教育の推進

(8) 特別活動の充実

- ① 児童の発想や創意を生かし，児童による楽しく豊かな学級・学校づくりを推進する
- ② よりよい学級学校生活づくりを目指して学級活動の話し合い活動を充実させる
- ③ 主体的・創造的な委員会活動・クラブ活動の推進
 - ・一人ひとりが存在感・満足感・達成感を味わう場に

(9) 人権意識を高め，差別をなくす意志と実践力を育てる人権教育の推進

- ① 学年の発達段階に応じ，人権意識を高め，差別をなくす強い意志と実践力を育てる
- ② 言葉の意味を考え，相手の立場に立った言葉遣いができる児童を育てる
- ③ 「知的理解」と「人権感覚」のバランスを良く身に付けるための研修の充実と人権学習の体系化
- ④ 保護者・地域の人権意識の啓発

(10) 特別支援教育推進

- ① 特別支援委員会を定期的に関き，当該の児童の教育や適正な就学指導を進める
- ② スクールカウンセラー，発達教育センター，特別支援学校，関係機関との連携を図る
- ③ そよかぜ学級（特別支援学級）の理解と啓発に努める
- ④ 通常学級に在籍する配慮を要する子どもへの組織的対応

(11) 特色ある宮竹小らしい生活科・総合的な学習の時間の充実

- ① 地域の人・もの・ことを生かして「I LOVE みやたけ」を実践する
- ② 体験を活かして道徳の時間との関連を図る
- ③ 地域に学び，地域に返す活動を充実させる

(12) 児童に働きかける教育的環境の整備・保全と効果的な活用を図る

- ① 教科指導と関連した学級園，花壇の計画的利用を推進する
- ② 児童が立ち止まり，語り合う掲示物を工夫する
- ③ 環境教育を推進するため分別収集の徹底とリサイクルに努め，環境美化の意識を高める
- ④ 施設，設備の充実，改善に努める

4 本年度教育の重点

(1) 「かしこい子」の育成・学力向上・ここUP

- ① 授業の質を高め自らの指導力向上に取り組む
- ② 算数の基礎的基本的な知識・技能の定着を図る
- ③ 家庭学習（自学）のさらなる改善を図る（学年×10分+10分）
- ④ 保護者・地域と連携した共育を推進する



(2) 「つよい子」の育成・凡事徹底

- ① 気持ちのよいあいさつが響き合う学校にする（自分から→立ち止まって→名前を呼んで）
- ② 「宮竹スタンダード」の徹底
- ③ 学級で、学年で、学校全体で 心ひとつに協働実践
- ③ 「いじめゼロプロジェクト」本校独自の取り組みを活性化

(3) 「助け合う子」の育成・自尊感情の醸成

- ① 地域や体験（教科等、学校行事、地域行事等）を活かした道徳教育を推進する
- ② いじめを許さず、思いやりのある言葉遣いや行動ができる子どもを育てる
- ③ 自分たちの問題をみんなで話し合って解決できる集団をつくる（主体的・創造的な活動）
- ④ 自分や相手を大切に、ちがいを認める子どもを育てる（スクールビジット）

(4) 「地域とともに進化し続ける学校づくり」の推進・「共育」の推進

- 学校・家庭・地域が連携協力して児童の健全育成を図り、信頼される学校づくりを行う
- 学校教育の理解を深めるために懇談会の充実を図る・説明責任・結果責任を果たす
- PTA行事、地域行事への参加を通して、家庭・地域との連携協力を図る
- 公民館、各種団体と連携を図り、地域人材をゲストティチャーとして活用し、多様な教育活動を展開する中で、「I LOVE みやたけ」を児童の姿として具現化を図る
- 地域の「人・もの・こと」に学んだことを「返す」活動を実践していく
- 宮竹小学校ホームページを活用して学校情報を積極的に発信する



学校経営方針を具現化するために

- ① チームアプローチによる目標達成 「チーム宮竹」
- ② 日常の教育活動における危機管理
- ③ 「宮竹小の3つの自慢」と「宮竹っ子のきまり」の定着
- ④ Yes,I can. (自尊感情) Yes,We can.(所属感・連帯感)
を高める学年学級経営
- ⑤ 地域に学び、地域に返す「共育」の実現